

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2855 号	氏 名	八 田 一 葉
審 査 委 員 会	主 査 教 授	亀 岡 信 悟	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>論文のタイトルは “D-dimer Measurement for Prediction of Pre- and Post-operative Venous Thromboembolism in General and Abdominal Surgical Cases (一般外科/腹部外科手術症例における静脈血栓塞栓症評価のための D-dimer 測定の意義)” である。</p> <p>【目的】 周術期に発症する肺血栓塞栓症は重篤で、適切な術前のリスク評価および予防は重要である。本研究では D-dimer 値と Caprini score との比較から、静脈血栓塞栓症 (VTE) のスクリーニング及びリスク評価における D-dimer 測定の意義について検討した。【対象と方法】 当科における 1 年間の腹部/一般外科手術症例 307 例を対象とした。術前 D-dimer 値 $>1\mu\text{g/mL}$ を高値群、$\leq 1\mu\text{g/mL}$ を低値群とした。【結果】 D-dimer 高値群あるいは VTE の既往/家族歴有群に対して下肢静脈エコー及び造影 CT を行い、12 例に VTE を認めた。Caprini score の平均値は、VTE 陽性例 $6.83(\pm 2.04)$、陰性例 $5.54(\pm 1.75)$ で、VTE 陽性例の Caprini score は有意に高値であった ($p=0.0238$)。また Caprini score の平均値は D-dimer 高値群 $5.53(\pm 1.86)$、低値群 $4.74(\pm 1.90)$、D-dimer 高値群では Caprini score は有意に高値であった ($p=0.0006$)。【考察と結果】 以上の結果より D-dimer 値は VTE のリスク評価において有用性の確立された指標ではあるが煩雑である Caprini score と正の相関があり、D-dimer 値が術前の VTE スクリーニングのみならず術後の VTE 発症予測においても有用であると考えられた。</p> <p>以上、臨床的に極めて価値ある論文である。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			